

研究計画書

①研究の名称	レジリエンス獲得の具体的方法の検討ー市民参加型ワールドカフェ参加者を対象とした二次元レジリエンス要因尺度を用いた前向き研究ー
②研究の目的及び意義	<p>【目的】</p> <p>当研究においてはレジリエンスを、困難に直面したときに適応的な結果を導く動的なプロセスと定義する。レジリエンスは、さまざまな要因によって導かれ誰もが保持し高めることができる (Grotberg, 2003) とされているが、その具体的方法は開発されていない。平野 (2010) はレジリエンス要因を資質的要因・獲得的要因に分類し、獲得的要因として「問題解決志向」「自己理解」「他者心理の理解」を見出した。これに基づき、将来的に起こりうる「悪い話」を他者と繰り返し語り合うことは、レジリエンス獲得に有効かつ具体的な方法となるか検証する。</p> <p>【意義】</p> <p>私たちは近親者との死別という苛烈な体験が不可避であると知りながら、それを乗り越えるのに必要なだけのレジリエンスが自身に備わっているかを確かめることは難しい。レジリエンスの促進にはストレスへの曝露が重要だとする心理的予防接種・強靱仮説がある一方で、慢性的で繰り返されるストレスへの曝露は不適応の原因となりうるし、心的外傷体験が個人に与える心理的負担は計り知れない。最小限のストレスで意図的にレジリエンスを獲得することができれば、将来的に生じるグリーフを回避、または、縮小化できる可能性がある。</p>
③研究の方法及び期間	<p>【研究デザイン】</p> <p>分析的観察研究 (コホート研究)</p> <p>【研究予定期間】</p> <p>平成 30 年 4 月～平成 33 年 3 月</p> <p>【研究方法】</p> <p>EGGs カフェを富山地区、高岡・砺波地区、新川地区の 3 会場で各 4 回ずつ、計 12 回にわたり開催する。テーマは「余命宣告」、「看取り・延命治療」、「最終療養場所」、「アドバンスケアプランニング」で統一する。各回のワールドカフェ終了後、参加者を対象に二次元レジリエンス要因尺度 (BRS) を用いた定量的評価を行う。これを 1～3 年程度継続して縦断的評価を行う。* Response bias の発生は考慮したうえで、繰り返し参加するかどうかは参加者の自由意思とする。</p> <p>【調査内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本属性：性別、年齢、職種 ○BRS を用いたレジリエンスの定量的評価 <ul style="list-style-type: none"> ・獲得的レジリエンス要因尺度の経時的変化 (主題であるレジリエンス獲得可否性の評価) ○サブ解析 <ul style="list-style-type: none"> ・資質的レジリエンス要因尺度の経時的変化 (資質的レジリエンスの時間的安定性の評価) ・ワークシートの記載内容の質的評価 <p>(テーマ別にみた項目の抽出と、獲得的レジリエンス要因下位尺度との対比)</p>
④研究対象者	市民参加型ワールドカフェ「EGGs カフェ」の参加者 約 100 名

⑤研究の科学的合理性の根拠	BRS は二次元構造と下位尺度について、その因子妥当性および尺度妥当性が確認されており、先行研究との関連性および整合性も確認されている。また、開発者の平野自身が BRS の限界と課題として「後天的なレジリエンスの身につけ方を探求していくことが望まれる」としている。
⑥インフォームド・コンセント	研究参加者には、研究への参加選択は自由であること、不参加による不利益がないことを明らかにしたうえで、研究への参加をもって同意を得たものとする。
⑦個人情報等の取扱い	得られた研究対象者の個人情報は、主任研究者が責任をもって管理する。また、個人情報保護方針は紙面で参加者へ毎回明示する。
⑧研究対象者の負担、リスク、利益等	自記式質問紙への記入負担がある（予定所要時間：10分）。 質問項目には侵襲的と判断される内容は設定されていない。 研究対象者には研究参加による利益の発生はない。
⑨試料・情報の保管及び廃棄の方法	研究は縦断的評価であるため研究対象者個人と調査内容情報とを継続的に紐付けする必要がある。研究参加者それぞれに任意の ID を割り当てて、これを別に保管する。調査内容情報には ID のみを記載してもらい、継続的な変化の観察には ID のみを用いて分析を行う。
⑩院長への報告	2016年4月までに EGGs カフェの活動計画について報告し、2017年3月までに活動報告を提出している。 研究の進捗状況については年に1回を目安に文書で報告する。また、研究実施に伴う有害事象が発生した場合には、速やかに報告する。
⑪研究の資金源等	現在、笹川記念保健協力財団の研究助成事業「ホスピス緩和ケアに関する研究助成」への申請を計画している。申請が不受理となった場合には、主任研究者の自己負担で活動及び研究を行う。
⑫情報公開の方法	研究内容および結果は、EGGs ホームページにおいて公開する。 また、研究結果はとりまとめたうえで日本緩和医療学会、日本サイコオンコロジー学会などで発表・報告することを予定している。
⑬相談等への対応	主任研究者が個別に対応する。連絡方法には E メール、電話、EGGs ホームページ内の専用フォームを用意し、それぞれを EGGs カフェ開催案内の紙面ほか、参加者に配布する個人情報保護方針にも明記する。
⑭研究対象者等の経済的負担又は謝礼（負担又は謝礼がある場合のみ）	—
⑮重篤な有害事象が発生した際の対応（侵襲（軽微な侵襲を除く。）を伴う研究の場合のみ）	—
⑯健康被害に対する補償（侵襲を伴う研究の場合のみ）	—
⑰研究対象者への研究実施後における医療の	—

提供（通常の診療を超える医療行為を伴う場合のみ）	
⑭ 研究結果の取扱い （研究対象者の健康、子孫に受け継がれ得る遺伝的特徴等に関する重要な知見が得られる可能性がある場合のみ）	—
⑮ 業務委託の内容（研究に関する業務の一部を委託する場合のみ）	—
⑯ 試料・情報を将来の研究のために用いる可能性等（可能性がある場合のみ）	
⑰ モニタリング及び監査の実施体制等（侵襲（軽微な侵襲を除く。）を及び介入を伴う研究の場合のみ）	—

※ ⑭～⑰は、該当する場合のみ記載